

分かる喜びを味わいながら 算数の学習に取り組む児童の育成

～既習事項を生かし自作教材を使って計算の仕組みを理解する活動を通して～

第2学年 算数 筆算の仕方を考えよう 「102-65」

特別研修員 算数 白岩 良子(小学校教諭)

(目指す児童像)

自ら課題を解決し「できた！分かった！」という喜びを味わい、「もっと考えたい！」と思う児童



嬉しい！！

自分で考えてできました！

もっと難しい問題を
をやってみたい！



十の位が0のときは
百の位から繰り下げる
のか！

繰り下がると一の位に
10が入るんだ！

振り返り

まとめる

深める

追究する

めあてを
設定する

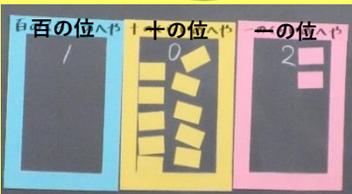
手立て②

児童の操作によって十進位
取り記数法の仕組みが分か
るような自作のブロック教
材の活用

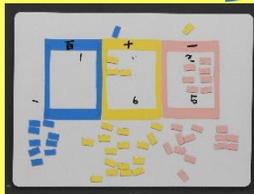


これがあると分かる！

自力解決している場面



黒板掲示用



机上操作用

本時の学び
「波及的繰り下がり」
のあるひき算に必要な、
10の概念と既習内容
の繰り下がりのある
2桁のひき算を意識
したミニプリント

① $80 - 10 = 10$	⑧ $26 - 15 = 11$	⑨ $35 - 45 = -10$
② $50 - 10 = 10$	$41 - 15 = 26$	$80 - 45 = 35$
③ $40 - 10 = 10$	$53 - 17 = 36$	
④ $10 - 10 = 0$		
⑤ $70 - 10 = 10$		
⑥ $60 - 10 = 10$		
⑦ $90 - 10 = 10$		

1学期のたし算の繰り上
がりとひき算の繰り下が
りはこうやるのだったな。

手立て①

自力解決のヒントになる
既習事項を復習する自作
のミニプリントの活用



(児童の実態)

○自ら考えて課題を解決し、喜びを味わうことが少ない。

(教師の願い)

○受動的でなく、自力で課題を解決する喜びを味わい「もっと難しい問題をやってみたい！」と次への意欲をもてるようになってほしい。

成果

- 自作のミニプリントで既習事項を復習したことで10のまとまりを意識でき、波及的繰り下がりにつなげることができた。
- 自作教材を使って考えさせたことで繰り下がり
の仕組みを理解させることができ、児童が自分
で課題を解決し、「分かった！」「黒板の前に
出て発表したい！」という発言があった。

課題

- 自作のブロック教材を使った説明と筆算の過程
が連動するための板書の工夫が必要である。
- 集団解決において、児童が互いに考えを発表し
ている時に、相手の考えと自分の考えの相違点
や類似点を伝え合えるような場面設定が必要で
ある。